

慶應義塾大学 看護医療学部の基礎実習が湘南慶育病院で行われました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



湘南慶育病院において、1月28～29日の2日にわたり、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス看護医療学部・看護学生の基礎実習を実施。事前に新型コロナウイルス感染症対策を万全にした状態で、30名の学生を受け入れ、現場で実習されました。将来看護師を目指す学生さんたちに、私がお伝えしたことを報告いたします。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス看護医療学部との連携の一環として、本年から看護医療学部の看護学生の基礎実習を湘南慶育病院で受け入れることになりました。



湘南慶育病院

実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を十分に考慮し、大学と病院で入念な準備を重ねました。これまでも慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）とは、遠隔診療の取り組みを始めとし、さまざまな連携を行ってきました。毎年秋には「健育祭 カラダとココロほかほかフェスタ」を開催。地域住民のみなさんやSFCの学生さんたちとともに、交流を通じて健康を広める催し物を実施しています。



慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

実習初日のオリエンテーションでは、私から学生のみなさんに次のようなお話しをしました。

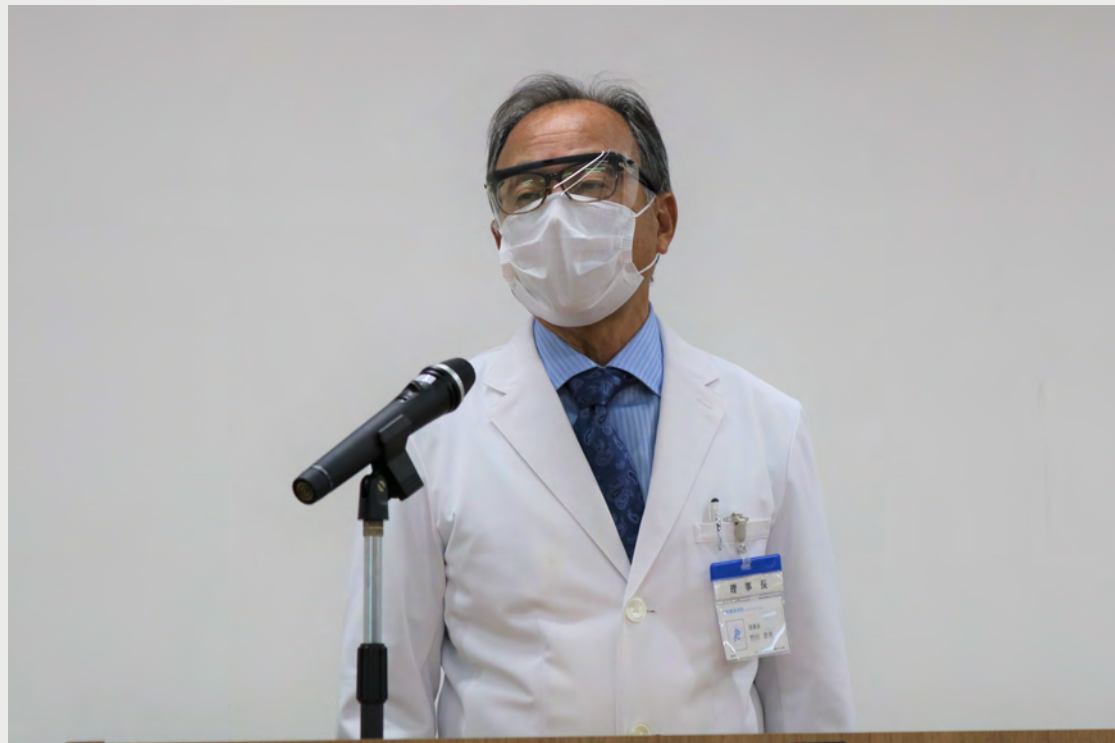
湘南慶育病院は、藤沢市から「地域に病院がほしい」という長年にわたる思いを受け、3年前に慶應義塾大学・藤沢市・健育会の3者コラボレーションにより設立された病院です。院内には研究施設もあり、臨床研究についても大学との連携を進めています。このような中で、このたびみなさんの実習を受け入れることができるのは、大変名誉なことでありがたく思っています。



今日と明日の実習を通じて、みなさんにお伝えしたいことがあります。

大学病院や総合病院を始めとする「急性期」の医療施設の役割は、命を救うこと——1分1秒でも命を長くつなぐことです。一方、湘南慶育病院は、一般床が30床ありますが残りの200床は高齢者のリハビリテーションやケアを行う「慢性期」医療です。

慢性期医療の役割は、患者さんがその人らしく、自分の尊厳を保ちながら生活できる医療やケアをすること。いわゆる「ナーシングケア」です。



急性期医療のキュア（治療）のチームのリーダーは医師で、看護師は医師の指示の元で動きます。一方、慢性期医療におけるチームリーダーは「全員」です。看護師の役割が非常に大きくなる。医師と相談しながら、看護師自らが治療計画を立案していくことも求められます。

その点を念頭に、本実習では、現場を実際に見て肌で感じていただきたい。2日間、頑張ってください。



今回の実習を通じて、今後も慶應義塾大学との連携を密にし、関係をさらに深めていきたいと思えます。